

指定管理者制度導入施設 モニタリングチェックシート

(令和5年度 上半期(4月～9月) 年間(4月～3月) の管理運営状況)

施設名	希望の家・ひばり分室	指定管理者	社会福祉法人 あきる野市社会福祉協議会
指定期間	令和3年4月1日から 令和6年3月31日まで	担当課	障がい者支援課

1 業務の遂行状況及び収支の状況

項目	分類		年間計画（A）	実績（B） （モニタリング時）	対計画比率 （B/A×100）
業務の 遂行状況	開館日数（日）		243	242	99.6%
	延べ利用者数（人）		4,860	4,139	85.2%
	事業開催 回数	必須事業（回）	243	242	99.6%
		自主事業（回）			%
収支状況	収入	指定管理料（円）	14,642,000	14,642,692	100.0%
		自立支援費収入（円）	45,737,000	41,805,325	91.4%
		自主事業収入（円）			%
		その他の収入（円）	896,000	434,582	48.5%
	収入計（円）…①		61,275,000	56,882,599	92.8%
	支出	人件費（円）	49,707,000	49,373,096	99.3%
		維持管理経費（円）	10,671,000	7,529,197	70.6%
		自主事業関係経費（円）			%
		その他の支出（円）	897,000	1,072,120	119.5%
	支出計（円）…②		61,275,000	57,974,413	94.6%
	収支（①－②）（円）…③		0	△1,091,814	-%
	諸経費（本社運営費など）…④				%
	総収支（③－④）（円）		0	△1,091,814	-%

指定管理者の自己評価 (改善点、その他特記事項)

【開館日数・利用者数について】 開所日数については、希望の家・ひばり分室ともに台風のため、1日閉所し242日であった。 延べ利用者数については、病気による長期(3か月)の欠席をした利用者や6月に入院後退所した利用者がいたため、令和5年度の対計画比率は85.2%となった。 希望の家及びひばり分室の利用者数は、両施設とも定員を満たしていないため、積極的に体験利用の実習の受入れを行ったが、ひばり分室は7人の現状維持、希望の家は入院後退所した利用者がいたため、当初の13人から12人となった。	【事業の実施状況について】 利用者全員の個別支援計画を作成し、利用者一人ひとりに合った支援を行った。 また、保護者会と連絡帳により意見や要望等を把握し、情報の共有を図りながら、利用者へ適切な支援の取組を行った。 新型コロナウイルス感染症が5類となったため、4年間実施できなかったバスハイク事業を実施することができた。日々の活動においては、手洗い等感染防止対策を徹底し、施設内での感染が広がらないように取り組んだ。	【収支状況について】 自立支援費収入については、病気による長期(3か月)の欠席をした利用者や6月に入院し、その後退所した利用者がいたため、令和5年度全体としての対計画比率は92.8%となり、収支としては、△1,091,814円の赤字であった。
--	--	---

所管課の評価（指摘事項）		
【開館日数・利用者数について】 開所日数はほぼ計画どおり実施できている。 利用者数の比率が 85.2%となっているが、病休や入院した方がいたことを踏まえると、やむを得ないものと受け止めている。 現在、希望の家及びひばり分室の利用者数は、両施設とも定員を下回っているが、令和 6 年度からひばり分室が希望の家と統合するため、定員に近い利用者数が見込まれる。 今後も体験利用実習を継続し、利用者の受入れを行うように願います。	【事業の実施状況について】 個別支援計画に基づき利用者個々に応じた支援を行っている。 また、保護者会や保護者との連絡帳のやり取りにより意見や要望等を把握し、施設や家庭内での状況についても情報共有していることから、安定した利用につながっている。 課外活動として、バスハイク事業を大きなトラブルなく実施できたことについて、評価する。 今後、予定している事業等についても、利用者等の状況を踏まえ実施するように願います。	【収支状況について】 収入については、病休や入院し退所した方がいたため、自立支援費収入が年間計画に比べ減少し、その影響から赤字となっている。 令和 6 年度からは希望の家とひばり分室が統合することで定員に近い利用者数が見込まれることから、適切な収支の管理をお願いする。

2 チェック項目

評価項目・評価事項（数値目標）		確認資料等	指定管理者の自己評価	所管課の評価
受付等の業務	施設の利用許可等を条例に従い適切に行っている	日報、月報、連絡帳、申請書	適正・要改善	適正・要改善
	昼食代、各行事参加費等実費に係る徴収を適切に行っている	日報、月報、申請書	適正・要改善	適正・要改善
施設・設備の維持管理	消防設備、機械設備の保守点検や施設の修繕等を適切に行っている	各種点検結果報告書、実地	適正・要改善	適正・要改善
	衛生環境を維持するため清掃業務等を適切に行っている	日報、月報、実地	適正・要改善	適正・要改善
	備品等を適切に保管・管理している	備品台帳、実地	適正・要改善	適正・要改善
	業務の全部又は主たる業務を第三者に請け負わせていない	実地	適正・要改善	適正・要改善
安全性への配慮	安全管理、衛生管理、危機管理に関するマニュアルが整備され、また、職員等に対する指導訓練が適切であり、市への通報体制が整っている	衛生管理・感染症対応マニュアル、災害時初動マニュアル	適正・要改善	適正・要改善
	避難経路の確保、事故防止策や防犯等の警備業務など利用者への安全対策が講じられている	実地	適正・要改善	適正・要改善
	損害保険等の必要な保険に加入している	保険証書	適正・要改善	適正・要改善
透明性・公平性	ホームページ等により施設の情報の公開に努めている	ホームページ	適正・要改善	適正・要改善
	情報公開に対する体制を整備している	重要事項説明書	適正・要改善	適正・要改善
	利用者の平等な利用が確保されている	日報、月報、連絡帳、申請書	適正・要改善	適正・要改善
効果的・効率的な運営	保護者会や連絡帳等を通じた意見、要望等を管理運営に反映している	連絡帳等	適正・要改善	適正・要改善
	施設の利用者拡大の取組を行っている	日報、月報、事業報告書	適正・要改善	適正・要改善
	経費削減のための取組を行っている	日報、月報、事業報告書	適正・要改善	適正・要改善
	広報紙、チラシ、ホームページ、フェイスブックなどにより積極的に事業等を周知している	広報紙、チラシ、ホームページ、フェイスブック	適正・要改善	適正・要改善

人員配置・人材育成等	事業計画書どおりの人員を配置している	17人	人員配置計画、実地、出勤簿	17人 適正・要改善	適正・要改善
	事業計画書どおりの職員の指導育成や研修を行っている	1回/年	研修マニュアル	1月実施 適正・要改善	適正・要改善
	障がい者や高齢者、地域住民の雇用促進に努めている	高齢者 47% 市内 100%	人員配置計画	高齢者 47% 市内 100% 適正・要改善	適正・要改善
	労働法令の遵守やハラスメント対策など、労働環境への適切な配慮がなされている		実地、出勤簿、就業規則等	適正・要改善	適正・要改善
個人情報の保護	個人情報を保護するための取組を行っている		個人情報保護マニュアル	適正・要改善	適正・要改善
	文書管理を適切に行っている		保存文書	適正・要改善	適正・要改善
自主事業の取組	自主事業の実施により、市民サービスの向上に努めている		事業報告書、日報、月報、実地	適正・要改善	適正・要改善
環境への配慮	省エネルギーの取組、環境負荷低減、ゴミの減量など、環境への配慮に取り組んでいる		日報、月報、実地	適正・要改善	適正・要改善

※評価基準

「適正」：その項目について、協定書、事業計画書等に沿った適正な指定管理業務を行っている。

「要改善」：その項目について、協定書、事業計画書等に照らし合わせて、目標達成されておらず、改善の余地がある。

3 上記1、2の評価に関する所見

指定管理者による所見（改善点、その他特記事項）
利用者の日中活動については、毎日の検温、手指消毒やマスクの着用等を徹底しながら、職員間で利用者の情報の共有を図り、一人ひとりの状況に合わせた適切な支援に努めた。 また、施設内をアルコール等で清掃し、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の取組を行った。 定期的に開催している保護者会と連絡帳により意見や要望等を把握し、サービスの向上と日中活動の支援に役立て利用者や保護者との信頼関係を築いてきた。 安全面への配慮では、看護師等の専門職を配置していることから、利用者一人ひとりの健康管理や相談などの受け入れ体制を維持することができている。 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策については、令和5年5月から第2類から5類となったことを受け、バスハイク事業など今まで実施できなかった事業を再開することができた。 令和4年度に設置した障がい者虐待防止委員会とともに、今年度は身体拘束適正化委員会を設置し、委員会委員の委嘱・任命、設置規程、虐待防止等のための指針・マニュアルの確認を行った。また各施設からの虐待通報及び相談事例についての事例検討を行った。
所管課による所見（指摘事項など）
台風による1日以外、閉所することなく、日中活動の場を提供することができた。 保護者会や保護者との連絡帳のやり取りにより意見や要望等を把握し、サービスの向上及び利用者、保護者との信頼関係を築いている。引き続き、利用者及び保護者との信頼関係の構築をお願いする。 また、統合に向けひばり分室利用者の体験日を設けたこと。また、両施設合同のバスハイク事業を実施したことを高く評価する。 令和6年度からは希望の家とひばり分室が統合するため、引き続き、利用者が安心して利用できる環境作りをお願いする。